

伊勢湾台風から60年 ～災害情報を避難につなげる～

国土舘大学防災救急救助総合研究所 教授
(元NHK解説委員)

山崎 登

令和元年・9・14

現在の災害報道

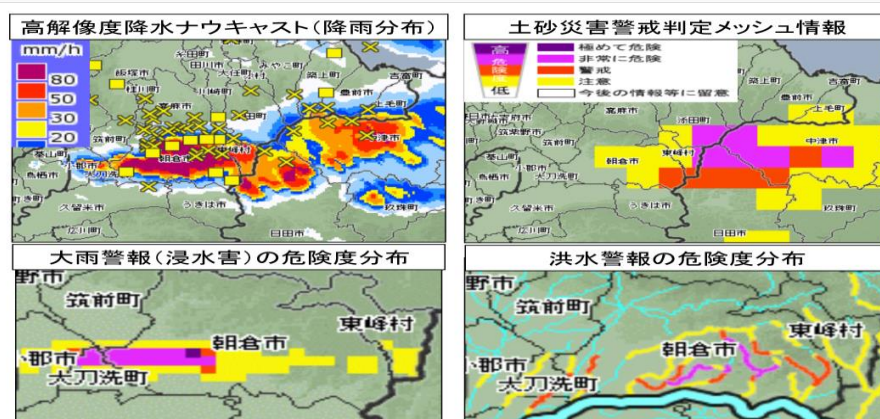


図2 降水分布(落雷含む)と土砂災害、浸水害、洪水害の危険度分布 (気象庁資料を市澤が編集)
7月5日午後1時20分。危険度分布の色分けは3つとも同じ。
浸水害と洪水害については、対象範囲をさらに拡大してある。
洪水警報の危険度分布の太線は指定河川(筑後川)の洪水予報を示す。この時間は何も発表されていない。

洪水警報の危険度分布(2017年から) 土砂災害メッシュ情報(2006年から)

より身近な情報を わかりやすく

伊勢湾台風から始まった予報の報道



名古屋市南区の被害と材木で壊れた住宅
(伊勢湾台風50年事業実行委員会)

▶ 伊勢湾台風まで

- ・被害の取材・報道に重点

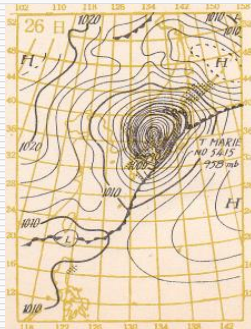


▶ 伊勢湾台風から

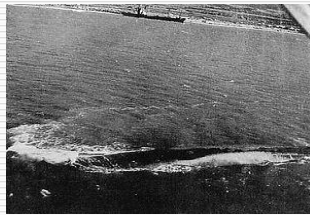
- ・台風の進路・勢力の予測
- ・警戒・防災の呼びかけ

初めての災害報道

□ 洞爺丸台風(昭和29年)



天気図 9月26日09時



転覆し船腹を見せる洞爺丸

函館港から出港した洞爺丸を始め、
5隻の青函連絡船が暴風と高波で遭難
し、洞爺丸の乗員乗客1,139名が死亡。

被害中心の報道では救えない

伊勢湾台風と災害報道

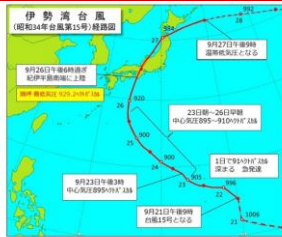


図1 伊勢湾台風 (昭和34年台風第15号) の経路図 ©気象庁

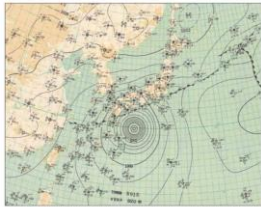


図2 地上天気図 1959年9月26日9時 日本列島を襲つた超大型で猛烈な台風第15号
中心気圧：920hPa 138、最大風速：60m/秒、25m/秒以上の暴風域：半径400km、直径300km
©気象庁

- ▶ 昭和34年9月26日 (潮岬に上陸)
 - ・NHKは気象庁に初めてテレビカメラを持ち込む
 - ・予報課長や天気相談所長へのインタビュー
 - ・名古屋でもNHKやCBCが名古屋地方気象台から放送
- ▶ 予報報道の成果は？
 - ・白黒テレビの世帯普及率 10% (昭和33年)
 - ・乾電池式ラジオの普及率 21% (名古屋市)
 - ・大規模な停電の発生

第2室戸台風1961年(昭和36年)9月

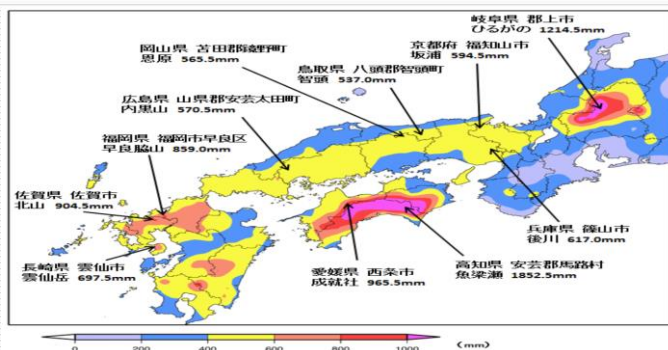
- ▶ 伊勢湾台風に匹敵する勢力で
兵庫県尼崎市付近に上陸
- ▶ 大阪管区气象台「最悪の事態、嚴重に警戒を」
- ▶ 大阪府知事がテレビとラジオで『台風の備えと早期の避難を』と呼びかける
- ▶ 高潮警報後
- ▶ 14市区町村で避難命令 44万人が避難
- ▶ 大阪湾のゼロメートル地帯の死者は0人

予報は防災につながる

防災のキーワードが情報に

- 1984年(昭和59年) 記録的短時間大雨情報
- 2005年(平成17年) 土砂災害警戒情報
- 2006年(平成18年) 土砂災害メッシュ情報
- 2013年(平成25年) 特別警報
- 2017年(平成29年) 洪水警報の危険度分布
- 2019年(令和元年) 防災情報のレベル化

2018年7月西日本豪雨の苦い経験



△ 11府県で大雨の特別警報(7月6日から8日)

福岡県・佐賀県・長崎県・広島県・岡山県・鳥取県・
兵庫県・京都府・岐阜県・高知県・愛媛県

△ 21府県で避難勧告と避難指示 対象863万人(7月7日)

指定避難所に避難 4万2200人(0.5%)

警戒レベル5段階

警戒レベル	住民が取るべき行動	避難の情報	雨の情報	川の情報
5	命を守って!	災害発生	大雨特別警報	氾濫発生情報
4	全員避難	避難指示(緊急) ・避難勧告	土砂災害警戒情報	氾濫危険情報
3	高齢者など避難	避難準備	大雨・洪水警報	氾濫警戒情報
2	避難方法 確認	-	大雨・洪水注意報	氾濫注意情報
1	最新情報に注意	-	早期注意情報	-

RRII

三重県楠町(現四日市市)の対応

□ 9月26日

午前9時 町議会を召集し防災態勢を整える

水防団や消防団に待機を指示

午後3時 町民への避難命令

雨が降る前から避難を開始

町のお大半が浸水、死者は0人

当時の中川薫助役

『何もなかったらそれでいいじゃないか。
住民にはそういう気持ちになってもらわなければいけない。
水に浸かっても死者がでないことはありがたいことだ』



三重県楠町(現四日市市)の教訓

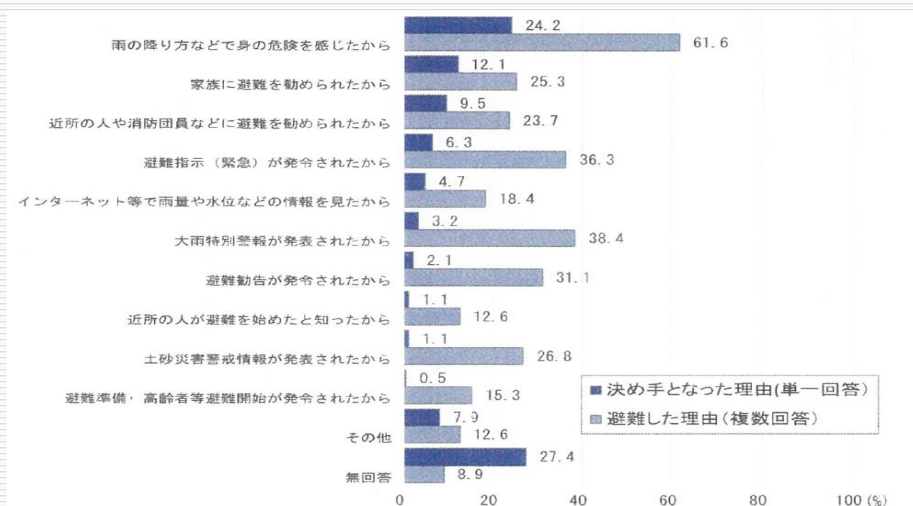


- △ 気象台からの情報だけでなく、
自前で気象観測し、状況把握
- △ 約2500人の住民が
水防団員や消防団員
(人口の約4分の1)

**行政の早目の対応
と
住民の防災の広がり**

内閣府 防災情報のページ「過去の災害に学ぶ」より

避難の決め手となった理由



(西日本豪雨 広島市の検証会議)

社会の防災の裾野を広げる

防災リテラシー

自分のこととして防災に取り組む基本知識と実践

- ・地域を知る
 - ・過去や他の地域の災害に学ぶ
 - ・災害情報を知って、避難に生かす
 - ・防災リーダーの存在
-

ありがとうございます。
